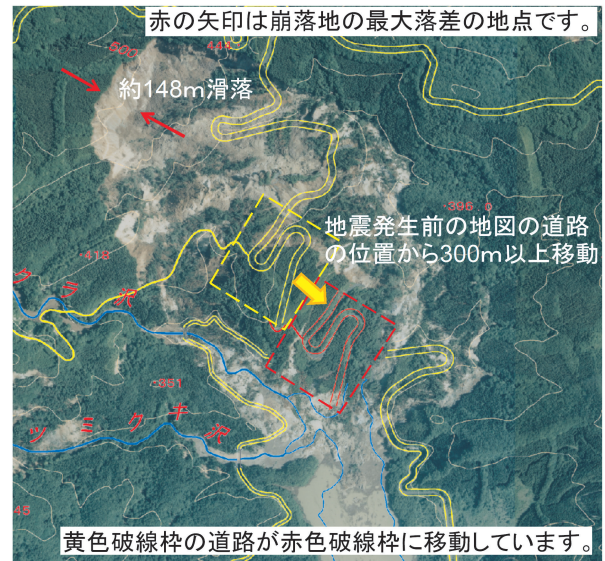


(a) 地形構成状況



(b) 移動体

図 2.3.2 荒砥沢ダム上流の地すべり⁷⁾

東栗駒山頂付近の火山噴出物が地震により約150万 m³が崩壊した。この崩壊物は、土石流となって、時速約30km で下流に流れ、約10km の距離を移動した。約5km を下ったところで、別の土石流が流れをせき止めたため、行き場を失った土砂は約30m の高台にあった駒の湯温泉川に流れ込み、宿を飲み込んだ。その後、土石流の一部はさらに下流に移動し、行者滝に架かる吊り橋にせき止められるようにして流れが止まった。図2.3.3に流路および代表的な写真を示す。

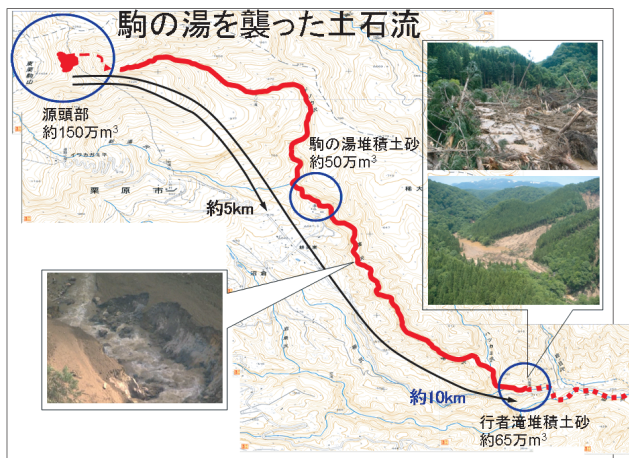


図 2.3.3 駒ノ湯を襲った土石流⁸⁾

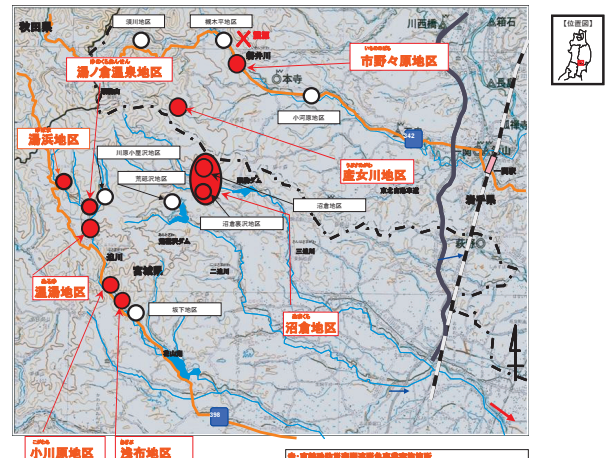


図 2.3.4 主要な河道閉塞発生現場

前述のように大きな河道閉塞は15カ所で発生した。図2.3.4に主な発生場所を示す。斜面崩壊が河川をせき止めてできるダムは土質工学では従来天然ダムと呼ばれていたが、地震